



かきしま たくや  
柿島 拓哉 議員  
(自営業)

### 函南町消防団の団員確保と災害対応力の強化について

消防団員の定員割れにより火災時や災害時に従事する団員を確保できるか。また、団員が救助に必要な資機材を実際に扱うことができるか不安です。そこで、消防団員の確保のための施策と消防団員や自主防災組織を対象とした救出救助資機材の講習会の実施についてどのように考えていますか。

#### 〈回答者〉町長

消防団員の皆さんには常日頃から火災の消火活動や水防活動にご尽力いただき、また、各自治会の行事にご協力いただき大変心強い存在と感じています。消防団員の減少は全国的な問題で、町でも同様に危機感を持っています。原因は人口減少に加え、就職先が通勤可能な範囲に少ないことや職業や生活スタイルの多様化などが挙げられます。対策として町内に就職先となる企業の誘致を進めています。また、消防団員の活動に理解のある企業を町ホームページなどへの広告の無償掲載ができないか検討しています。災害時に必要な資機材の実技訓練は、田方北消防署、函南町消防団本部に研修会実施の検討を依頼し、対応したいと考えています。



すくろ ひなこ  
勝呂 妃南子 議員  
(静岡看護学校1年)

### 妊娠・出産・子育てにあたたかい函南町づくり

知恵の和館や子育て支援課ができ、町の子育て支援の体制が充実してきていますが、子育てに伴う住居の引っ越しなどに係る費用を補助する制度や、病児・病後児保育の充実など、まだ必要なものがあると思います。妊娠・出産・子育てに関わる町民に対して、どのような施策を考えていますか。

#### 〈回答者〉町長

少子化は大きな課題ですが、重要なのは、子どもが少なくとも1人ひとりを健やかに育てることです。そのためには、妊娠・出産・子育てのそれぞれの段階に応じたフォローが必要です。町では妊娠に向けた支援として、不妊・不育症治療費の助成や風疹予防接種費用の一部助成など、子育て期の支援として保健師による訪問、こども医療費助成制度の拡充、ベビー用品の貸出しなどを実施しています。また、保育園の増築や幼稚園で実施している「預かり保育」の実施する幼稚園を増やすなど、待機児童の解消にも取り組んでいます。今後も関係機関と連携して、子育て支援のニーズに応えるための取り組みを推進していきます。



おざわ なお  
小沢 菜緒 議員  
(三島南高校3年)

### 子どもたちを地域で守り育てる環境づくり

子どもたちが健やかに成長できる環境を整えることは、町にとって大変重要です。子どもの頃に地域の人と豊かな人間関係を築ければ、その後も気軽に声を掛け合い、助け合うことができると考えます。

第六次総合計画において、子どもと地域の絆を深める施策についてどのように考えますか。

#### 〈回答者〉町長

子どもと地域の絆を深める施策は大変重要であり、第六次総合計画で取り組んでいきます。町では子どもたちと地域の皆さんが気軽に触れ合うことができる機会を設け、地域で子どもを育てていけるようなシステムの構築に力を入れています。

現在、町には35の自治会があり、コミュニティが既に形成されています。地域の祭事などを開催できるのは、このコミュニティがしっかり機能しているからです。隣近所で面倒を見ながら子どもを育てることは日本の伝統であり、子どもを地域で守り育てることは日本の未来を育てることもあります。

福祉・医療・子育て支援に係る施策に町としても引き続きしっかりと取り組んでいきたいと思っています。



いただき たかひろ  
板垣 貴大 議員  
(田方農業高校2年)

### 明るく安全で安心できる町づくり

帰宅時間が遅い学生や高齢者が安心して外を歩けるように、街灯が少ない地域に街灯を設置してほしいと思います。

現在、町では交通安全の推進について、どのように取り組んでいますか。また、街灯の設置についてどのように考えますか。

#### 〈回答者〉町長

交通安全の推進にあたり、町では、夜間歩行者への反射ステッカーやタスキ着用の啓発、自動車や自転車に早めのライト点灯を呼びかける運動、子どもや高齢者を対象とした交通安全教室の開催など「ソフト」な取り組みを行っています。

また、カーブミラーの設置、道路標示や標識の設置など警察署や自治会との協議により施設整備を行う「ハード」な取り組みを行っています。

街灯は、防犯上の問題がある箇所、自治会から要望のあった箇所を中心に設置しています。まだまだ設置が進んでいませんが、安全・安心のために、引き続き取り組んでいきます。また、夜間の車両の事故防止などから県道などは道路管理者である県に道路照明灯や歩道の設置を要望をしていきます。



しあや かずみ  
塩谷 和史 議員  
(函南中3年)

### 医療と介護の垣根を越えた福祉について

10年後の函南町に総合的な福祉都市としての機能を備える町になってほしいと思います。医療と福祉の垣根を越え、病気の初期から終末期まで一貫したサービスを受けられる施設・体制を整えることで、高齢者や家族に安心感を与え、これからも住み続けたいと思える町になると思いますがどのように考えますか。

#### 〈回答者〉町長

高齢化が進み、町民の約3人に1人が65歳以上です。町では、高齢者が安心して暮らせるように、住まい・医療・介護に関するサービスを一体的に提供するまちづくりに取り組んでいます。医療や介護に関することは福祉課や健康づくり課、地域包括支援センターなど、病院や福祉施設に関する相談はそれぞれの病院や福祉施設の専門の相談員に相談することができます。町内には医院や福祉施設が多くあり、それぞれ役割が決まっています。質問のとおり1人ひとりの症状に合わせた支援を1つの施設で受けられれば素晴らしいですが、そのためには広い土地と莫大な費用が必要になります。今後も医療と福祉の垣根を越えたまちづくりを進めていきます。



くろだ よしお  
黒田 吉歳 議員  
(東中3年)

### 子育て支援による函南町なりの町おこしについて

私は人口減少を防ぐために3つの施策を考えました。①あいさつ運動など地域活動を増やして町内の絆を深めること。②町内の親が情報共有するネットワークをつくること。③親が安心して仕事に専念できるように24時間営業の保育施設をつくること。この3つの取り組みについてどのように考えますか。

#### 〈回答者〉町長

①あいさつを交わすと気持ちがよくなり自然と笑顔が増えていきます。町では「あいさつ運動」を実施し、地域の皆さんとあいさつを通じて人と人とのつながりを深め、安全で明るいまちづくりを推進しています。②知恵の和館は赤ちゃんの遊び場だけでなく親同士の結びつきができる場になっています。SNSの活用は利用する人の情報の安全性などをクリアし、現代に即して有効に活用したいと思います。③夜間保育や深夜保育を実施している施設はありません。近年話題の「子ども食堂」などを参考に地域の協力を得て、子どもから1人暮らしの高齢者まで支援し、社会情勢の変化や住民のニーズに合わせた取り組みが必要だと思います。